

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0061号
護國青年會議機関紙 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成21年6月30日

「お試し政権交代」が招く日本の危機

民主党の新たな代表に選出された鳩山由紀夫は五月十七日、党の執行部人事を発表した。代表選を争った岡田克也の幹事長起用は、ある程度予想されたことだが世間が注目していたのは小沢一郎の処遇だった。あまり重要なポストを与えると、「小沢院政」とか「傀儡」との批判は免れないし、

どうでもいいポストをあてると小沢がへそを曲げて、今後の党内運営に支障が出る。いずれにしても、小沢の処遇に気を遣えば遣うほど、小沢の束縛から鳩山が自由になっただけのことの証左が明らかにされる、という皮肉ともいえる現状だけが浮き彫りとなった。鳩山としては、代表選で全面的な支持を受けた恩があるから、今更小沢と距離を置くわけにはいかない、かといってせつかく代表になつたというのに、小沢に好き勝手やられたのでは面白くない、いかにして小沢の面子を潰さず実権を握るかに頭を悩ましたに違いない。その結果、小沢のポストは選挙担当の代表代行ということになった。鳩山は事前に「小沢さんにも執行部に入ってもらいたい」と言明していたが、党のカネと選挙を仕切る幹事長にはあてられない、さりとて党の政策責任者である政調会長なんてものは論外、小沢サイドが選挙を仕

切りたがっているのは分かっていたから、落ち着くところに落ち着いたということだろう。



民主党新執行部の面々

鳩山は、これまでの小沢・鳩山・菅に岡田を加えた「トロイカプラスワン」という表現を使っているが、実際はさらに参院議員会長の輿石東（こしいしあずま）も入れた「トロイカプラスワンおまけのワン」による集団指導体制をとるようだ。民主党議員の中には「これで小沢は五分の一になったから、そうは勝手なことができない。カネは鳩山と岡田が握り、菅と輿石が監視すれば、少しはおとなしくなるだろう」などと言っている。一方では「船頭多くして、船山に登る」ことを懸念する声も聞かれる。どう転んでも鳩山がリーダーシップを発揮し、小沢

を使いこなすことなど期待するほうが無理というものだ。

小沢は新人事が発表された夜、記者団を避けるように非常階段を使って党本部を出ている。当面は沈黙を守り、表舞台に出ないつもりだろうが小沢の側近は「代表時代は何かと制約もあったが、これで選挙に専念できる」と語っている。しかし、そう上手く事が運ぶのだろうか甚だ疑問が残る。選挙担当の代表代行とは言っても、岡田だつて幹事長として選挙を仕切りたいだろうし、元社会党のポン助書記長だつた赤松広隆も選対委員長に居座っている訳だからその調整はどうするのか、民主党の困惑が目につかび、今から内紛が楽しみでならない。

「日本は日本人だけのものではない」と国を売るような事を平然と言つてのける鳩山、そのハトを掌の上で踊らせる傀儡師・小沢、横田めぐみさん拉致事件の実行犯である辛光洙（シン・グアンス）の釈放署名運動に奔走した菅、日韓関係が円滑にいかないの



輿石東だ

は、すべて日本が悪い」と反日発言を繰り返す岡田、揃いも揃って、何処の国の政治家か分からないような性根の腐つた連中ばかりだが、性根が腐っていると云えば「おまけのワン」の輿石がナンバーワンだろう。

輿石は代表選が行われた日の午前中は地元山梨県において山梨市で開かれた山梨県教職員組合（以下、山教組と呼ぶ）の定期大会に出席している。席上、輿石は「今日の来賓は私の選挙で前面に立つてくれた人たちがかりだ。午後には民主党新代表が決まる。政府与党は教員免許更新制度などとふざけた事を言っているがPTAと手をつなぎ自信を持つて進もう。教育の政治的中立など言われてもそんなものはあり得ない。政治から教育を変え、教育から政治を変えていく。そんな勇氣と気構えを持ってもらいたい。私も日教組とともに戦い、永遠に日教組の組合員であるという自負を持つている」という主旨の挨拶をしている。大会では衆院選に向けて、県内の三選挙区すべての民主党公認候補を支持することも確認されている。教育とは本来、不偏不党でなければならぬ。しかし、山梨では教育が政治に介入し、政治を支配しようとする謀議が白昼堂々、しかも

は、すべて日本が悪い」と反日発言を繰り返す岡田、揃いも揃って、何処の国の政治家か分からないような性根の腐つた連中ばかりだが、性根が腐っていると云えば「おまけのワン」の輿石がナンバーワンだろう。

公党である民主党の代表代行兼参院議員会長という要職にある奥石東主導のもと行われているのだ。

筆者の知人に山梨県南アルプ入市に在住する住職がいる。その住職の縁故者である五十代の中学校教員のA氏から二年ほど前に聞いた話をもとに奥石がどのようにして山教組を私物化し、食い物にしてきたのかを検証してみた。

奥石が平成二年の衆院選で初当選し、国会議員になってから年に二回のボーナスのたびに、校長は一万円、教頭は七千円、一般教員は五千円を強制的に徴収されるようになった。それとは別に臨時カンパと称して随時それぞれ三万、二万、一万を徴収されることもあったという。

驚いたことに選挙資金集めやカンパは奥石の選挙だけではなく知事選や県議選のような地方選挙でも当たり前のように行われ恒例行事となっているようだ。選挙のない時でもカンパは行われ、A氏は今までに約百万円もの選挙資金を拠出させられたというのである。国政でも地方でもとにかく選挙があると自己の政治信条とは無関係に、山教組の息がかかった民主党候補を応援することが強制されるという信じられないことが行われている。

山梨県教育委員会は、山教組出身者が幅を利かして、選挙応援を拒否すれば、年度末の

人事異動などで不利な目に遭うので逆らえないのが実情だ。奥石のための選挙運動は、前述した強制徴収だけでなく、後援会の名簿集めやポスター貼りや電話作戦にまでおよび、教員たちにとつて相当な負担となっているようだ。

平成十六年の参院選挙だけでも奥石が強制徴収した選挙資金は、一億円にも上ると言われている。本来は政治的言動を慎まなければならぬ教員が堂々と選挙活動に明け暮れるとは言語道断であり、このような教員が日常的に跋扈する山教組に教育現場の荒廃の主たる原因を見た思いがする。

教育者が、その本分でもある教鞭を捨てて、奥石のために日夜奔走し、献上した資金の使途は、曖昧になったままである。今年の通常国会では、西松事件に象徴される政治とカネの問題があれほど大々的に取り上げられ、関心を集めたというのに、奥石の「政治とカネと教育」の問題についてメディアは触れようともしなかった。一方で山教組を私物化した奥石は、小沢一郎に取り入り、民主党参院議員会長と代表代行の座を得たのである。

民主党内での奥石の力が増すにつれて、山梨県の教育界における奥石グループの横暴は目につけるものとなった。平成十八年三月、ようやく重い腰を上げた

県教育委員会は、山教組幹部や公立小中学校校長ら合計二十四人を、教育公務員特例法に抵触する行為があったとして停職等の懲戒処分を下した。それについて聞かれた奥石は関与を否定し、「彼らが勝手にやったことで私は関係ない。私が資金を集めてくれと頼んだわけではない」と知らぬ存ぜぬを決め込んだ。自分のために罪を犯すことになったり、処分を受けた仲間たち

のことを歯牙にもかけないで、己の保身に執着する奥石は人間以下の劣等動物だと言える。この夏には行われるであろう衆議院選挙で、恐らく自民党は一敗地にまみれて下野することとなるだろう。だがしかし、このまま民主党に政権を渡して良いのだろうか、衆院では関係政治団体に三十五億円超の不正蓄財をさせている小沢一郎が実権を握り、参院は教職員を使い捨て己の保身と責任逃れに終始する奥石東という人間の屑がトツプでいる民主党に政権を担わせるに本当に良いのだろうか、日本の将来を憂慮し、真摯に考えて行動しなければならぬ時は目前に迫っている。

民主党が政権を執ったら日本はどうなってしまうのか。民主党が執着する売国法案は在日外国人参政権付与だけではない。慰安婦法案が通れば、日本国と我々日本人は無条件で謝罪させられ、多額の賠償金を搾取され

続けることになる。何の根拠も証拠もない慰安婦問題が国際的に確定事実とされ、歴史は虚偽に書き換えられ、日本は未来永劫この汚名を背負うことになってしまう。悪名高い村山談話や河野談話を、過去の政権が認めてしまった過ちに、日本国民がどれだけ苦しめられているのか、どれだけ損害を被っているのか、未だにそれらの禍根を修正できないままとなっている。

日本は今、それこそ未曾有の

危機に直面している。経済対策や年金問題は無論大事な問題だが、真に選挙の争点とすべきことは、如何にして日本国を護るのかという一点に尽きる。軽い気持ちでの「お試し政権交代」が日本の命取りになることを強く認識し、間近に迫った総選挙は、自民党対民主党などという瑣末な構図ではなく、日本人対売国日本人の戦いだということ

を肝に銘じ行動すべきである。編集人・戸出蒼流

障害者を欺く民主党副代表



一般企業のダイレクターとして偽装し、郵便割引制度の適用を受けて、数億円に上る郵便料金を不正に免れたとされる事件が明るみになった。この事件で多額の利益を得た障害者団体・凜の会（現白山会）会長の倉沢邦夫と、活動実態のない凜の会を郵便割引制度の適用団体とする証明書を不正に発行したとして厚労省の村木厚子雇用均等局長が逮捕されている。村木は、働く女性の希望の星」といわれ事務次官候補として将来を嘱望されていた。その希望の星が証明書を不正に発行した裏には国会議員からの口利きがあったことが明らかになっている。何故かメディアは実名をあげないがネット上では石井一民主党副代表の名が公然と取り上げられ、障害者を食い物にする石井の正体を暴いている。

先に逮捕された倉沢は石井の元秘書で昵懇の間柄である。倉沢の依頼を受けた石井が厚労省に圧力をかけたことは容易に推測できるが、取材に対して石井事務所は「依頼は一切ない。ウチは一切かわりない」と関与を全面否定している。しかし石井はグレーどころか限りなくクワに近く、天網恢恢疎にして漏らさず。捜査の行方が楽しみになってきた。編集人